



平成27年9月号に寄せて

全国市議会議長会

会長 岡下 勝彦

私の住む高松市は、四国の北東部、香川県の中央に位置し、北は日本で初めて国立公園に指定された瀬戸内海に面し、南は讃岐山脈に至るまで変化に富む自然・地理的環境を有しています。

安土桃山時代に、生駒親正により高松城が築城されたことを契機に城下町として栄え、現在では人口42万人、面積約375平方キロメートルを擁する、便利な都市機能とのどかな田園風景がコンパクトに調和したまちとして発展を続けてきました。

私は、平成27年6月17日の第91回定期総会におきまして、全会一致のご推挙により、第61代の全国市議会議長会会長に就任いたしました。

我が国においては、少子高齢化の進行に伴って人口減少が進み、自治体においては地域医療や介護、子育て支援等の社会福祉対策や地域活性化など、取り組むべき課題が山積しております。こうした大変厳しい状況下におきまして、喫緊の課題でございます地方創生、地方一般財源総額の確保等に全力を傾注してまいり所存であります。

さて、地方分権の推進に関する決議が衆参両院で議決されてから20年余りが経過し、議会は地方自治体の意思決定機関として、これまで以上に多様な民意を反映し、政策立案機能及び監視機能を効果的に発揮していくことが求められております。また、現下の厳しい地方財政の中、多様な住民ニーズを把握した上で、適切な政策の選択を行っていかねばならない状況にあります。

折しも、今年度は地方創生元年として、国・地方挙げて地域の将来像が議論されることとなります。全国市議会議長会といたしましては、地方議会が住民の負託に応え、その機能を十分に発揮できるよう、さらに努めてまいりたいと考えております。

また、近年の気候変動に伴う局地的な豪雨や地震等の自然災害に対して、防災・減災対策を充実させていくことが従来にも増して大きな課題となってまいりました。このような状況下、一般財団法人全国市町村振興協会が実施されている災害関連事業は、市町村にとって大変有意義なものとなっております。今後も支援の継続をお願いいたしますとともに、貴協会の更なるご発展をご祈念申し上げます。